

## ユネスコスクール・ESD全国実践交流会in大牟田 開催！

平成30年度の全国実践交流会が、「みんなで語り合おう、SDGsに向けたESDの次なるステップ」をテーマに行われました。全国から300名を超える参加者があり、盛会のうちに終わることができました。午前中の全体会では、日本ユネスコ国内委員会委員、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員及川幸彦先生に、「ESDとSDGsについて」と題して講演をしていただきました。午後は、4つの分科会に分かれて熱心な討議が行われました。今回の実践交流会の成果をもとに、子どもたちの実態をふまえ、各学校の特色を生かして取り組んでいきましょう。



▲主催者あいさつ  
大牟田市教育委員会  
安田 昌則 教育長



▲環境省大臣官房  
環境教育推進室  
河野 通治 室長



▲大牟田市あいさつ  
甲斐 茂利 副市長



▲ESD活動支援センター  
鈴木克徳副センター長



▲文部科学省  
国際統括官付専門官  
徳留 丈士 氏



▲九州ESD活動支援  
センター  
澤 克彦 氏



▲東京大学  
及川 幸彦先生

### ESDとSDGsについて ～持続可能な社会の創り手を育成するESD～

日本ユネスコ国内委員会委員の及川先生は、持続可能な開発を達成するためには、「経済成長・社会的包摂・環境保護」の3つの主要素を調和させることが不可欠であることを指摘されました。そして、GAP(グローバル・アクション・プログラム)や新学習指導要領とESDとの関係、めざす資質・能力とESDの関わりについて説明をしていただきました。これらを踏まえ、SDGsがめざす5つのP(People, Planet, Prosperity, Peace, Partnership)がそろえば、持続可能な社会ができるとのことでした。

その上で、「SDGsの全ての目標達成に貢献するESD」「SDGsを取り入れたESDの推進」について、大牟田の例を紹介されました。SDGsをESDに生かす5つの視点として、「ESDの取組の関連付け・整理」「取組の国際的な課題への貢献」「目標の相互関連」「焦点化」「教育の重要性」を挙げられました。

### 第1分科会「地域学習」



▲福岡教育大学  
石丸 哲史先生

気仙沼市立面瀬小学校、岡山市教育委員会、宮原中学校からの実践報告がありました。石丸先生は、課題、目標、ビジョン、アクションの共有の重要性について指摘されました。

### 第3分科会「世界遺産学習」



▲奈良教育大学  
中澤静男先生

長崎市立大浦小学校、宗像市教育委員会、高取小学校から実践報告があり、中澤先生からは「見方・考え方」の育成、価値観の育成等について、学習指導要領をふまえた話がありました。

### 第2分科会「海洋教育」



▲東京大学特任研究員  
川上真哉・加藤大貴先生

気仙沼市立鹿折小学校、彦根市立佐和山小学校、大牟田の3校から報告があり、海洋教育の多様性について、助言をいただきました。

### 第4分科会「地域ESD学び合いフォーラム」



福岡県立ありあけ新世高校、城南高校、長崎県立対馬高校からの実践報告をふまえて、若年世代の交流を行うひとときとなりました。